

第3回

日本犯罪社会学会 主催

講座「犯罪学」

日程：2023年9月16日（土）～18日（月・祝）（3日間）各10:00～16:50

会場：立教大学 池袋キャンパス 5号館1階5124教室

対象：「犯罪学」に興味のある学生・実務家など

日本犯罪社会学会第17期企画調整委員会では、2020年、2022年に引き続き、犯罪学の普及を目的とした、第3回講座「犯罪学」を下記の要領で実施いたします。

本講座は、犯罪学理論の体系化を中心におきつつ、犯罪学の最先端のテーマや議論を扱います。各テーマに精通した講師陣による講義により、犯罪学の考え方やこれまでの到達点を知ることができます。ぜひご参加ください。

参加費

※参加有料・申込制

一般 15,000円

学生 10,000円

※学生の方は割引コード「5931」と入力してください。
当日は学生証をご持参ください。

定員：50名程度（先着順）

※定員に達し次第、受付を終了します。

チケット申込はこちら→

<https://criminologyssem3.peatix.com>



※お客様の都合によるチケット購入後の払い戻しは、一切できません。
※領収書の発行はしていません。

会場アクセス

JR各線・東武東上線・西武池袋線・東京メトロ丸ノ内線/有楽町線/副都心線「池袋駅」下車。
西口より大学正門まで徒歩約7分。
正門を背にして、正門前の横断歩道を渡ってすぐの建物（5号館）です。

【住所】

〒171-8501

東京都豊島区西池袋3-34-1



講座「犯罪学」プログラム

※都合により、一部変更となる場合があります。

time	1日目 2023/9/16 (土)	2日目 2023/9/17 (日)	3日目 2023/9/18 (月・祝)
10:00 ～ 11:20	講座「犯罪学」 イントロダクション (浜井浩一・龍谷大学) コトバンクは、犯罪学を犯罪にかかわる事項を科学的に研究する学問とし、総合科学として、最終的には犯罪の少ない快適な人間社会を旨すと記している。犯罪学の過去・現在・未来をざっくりみておこう。	理論② 緊張理論・アノミー理論 (野田陽子・淑徳大学) 緊張理論について、アノミー論を中心にその学説史上の意義に触れながら系譜論的に展開したうえで、この理論の、政策を含む現実への適用可能性と今後の理論的発展の可能性ならびに方向性について考える。	理論⑥ 離脱・ライフコース理論 (津富宏・静岡県立大学) 離脱 (desistance) とは、非行や犯罪をしないようになること (あるいは、そのプロセス) を指す概念である。本講義では、離脱概念の意義に概説し、今年、本学会大会にお招きするShadd Marunaの離脱観についても触れる。
12:30 ～ 13:50	基礎① 犯罪対応の制度 (四方光・中央大学) 近時の刑事政策は、処遇だけでなく予防からアフターケアまで、加害者だけでなく被害者の支援に広がっており、それを支える法制度と組織・団体の概要、政策実務における複数の法的価値の均衡について紹介する。	理論③ サブカルチャー・学習理論 (齊藤知範・科学警察研究所) 犯罪学には、犯罪・非行は後天的に学習されるとみなす立場の理論がある。本講では、犯罪学の古典や身近な犯罪・非行を例に挙げながら、人がよりどころにする集団に接して犯罪・非行へと至る道筋を学ぶ。	理論⑦ 環境犯罪学 (松川杏寧・兵庫県立大学) 本講義では、犯罪が起こる「場」に着目し、その視点から犯罪を予防、減少させることを目的として発展してきた環境犯罪学について、その概論とそれらにもとづいた犯罪予防研究について、社会実装の視点を交えて学ぶ。
14:00 ～ 15:20	基礎② 犯罪学の研究方法 (岡邊健・京都大学) 犯罪学の実証研究には計量的方法・質的方法のふたつがあるが、本講では主に前者に関する基本的事項を講じる。研究方法の理解は、以後の講義で扱われる諸理論の理解に不可欠である。犯罪量の測定方法にも触れたい。	理論④ ラベリング理論 (山本功・淑徳大学) ラベリング論の社会学説史を概観し、構築主義へと至る流れを紹介する。原因論としての受容と、社会学的パースペクティブとして分岐していく二つの系譜に整理する。ゴフマンのステイグマ論との異同にも触れたい。	トピックス① 刑事司法と福祉 (水藤昌彦・山口県立大学) 刑事司法と福祉の関係の現状と課題、在り方について、刑事手続の対象となった障害者に対する福祉の支援を題材として考える。国内外における展開状況を確認したうえで、支援にあたっての理論的基盤を含めて検討する。
15:30 ～ 16:50	理論① 犯罪学理論への導入 (石塚伸一・龍谷大学名誉教授) G・ルッジェラの『刑罰と社会構造』は、囚人の生活水準は社会内の無産者の生活よりも劣悪であるという劣等化原則と失業と刑務所人口は相関するという労働市場論で説明した。講義ではこの理論を日本のデータで検証する。	理論⑤ コントロール理論 (朴元奎・北九州市立大学名誉教授) アメリカにおいて1970年代半ば頃から注目を集めた社会的コントロール理論とより統合的な理論へと修正を試み、1990年代の代表的な理論の一つになったセルフコントロール理論について、その意義と特色などを議論する。	トピックス② 修復的司法 (森久智江・立命館大学) 修復的司法 (Restorative Justice) は「応報的司法」の対案として紹介されて以降、「加害者―被害者対話」という実践として浸透してきた。ただそれはRJの一側面に過ぎず、RJが真に目指すものについて考える契機を本講義で提供したい。

- ・日本犯罪社会学会の会員に関わらず、どなたでもご参加いただけます。
- ・各講義とも質疑応答の時間あり。

受講者には修了証を発行いたします。

お問い合わせ

日本犯罪社会学会 企画調整委員会

【E-mail】

criminologysem.kikaku@gmail.com

【URL】 <http://hansha.daishodai.ac.jp/>